

別添 6

ズワイガニの資源管理目標等に関する研究機関会議（日本海系群）議事要録

日程：令和 2 年 4 月 28 日 9 時 30 分～17 時 45 分

（事前検討期間：4 月 14 日～27 日）

会場：Web の掲示板機能を利用したネットワーク会議

日本海系群の各海域資源に関する主な議論

【A 海域】

・再生産関係について

外部有識者から再生産関係の自己相関の考慮について指摘があり、担当者から、現状の得られているデータでは自己相関を考慮する必要はないと判断されること、将来予測の直近 3 年の加入は、調査結果による資源尾数を用いて予測しているため、再生産関係による予測よりも現実的な予測と考えられることを説明し、今後、大きな変化があり、新たに自己相関を考慮する必要がある場合には、AIC の枠組みの中で評価できる手法を検討したい旨回答した。

参画機関から、再生産曲線に強い密度効果が仮定されるリッカー型を採用したことの妥当性について指摘があった。担当者から、共食いもみられるなど、他の魚種よりも密度効果が強い部分はあるものと考えていること、現状のデータではリッカー型が採用されるが、今後も調査データの充実を図り、データを蓄積し、5 年に 1 回を目処に、再生産曲線や管理基準値を見直していくことを説明した。

・その他

外部有識者から、今後 2 年の加入水準が低いことを見込まれるため、 F_{msy} で漁獲しても親魚量が SB_{msy} を一時的に下回る確率が高いことについて、また、再生産関係において親魚から加入まで 7 年と長いために加入の将来予測で生じる「周期変動」について、説明を加えるべきとの指摘があった。また、参画機関から、「アカコ」について説明を加えるべきとの指摘があった。これらについて、加筆修正することとした。

参画機関から、資源評価における資源状況の表記について、 MSY 水準との比較になるのかとの確認があった。漁獲量予測値と F について確認があった。

【B 海域】

・資源量指標値について

資源水準の判断、漁獲管理規則の設定に用いる資源量指標値に、商業漁獲データを用いる

ことについて、外部有識者から、時系列が長く、過去の資源水準の変化も表れている本データを用いることに反対ではないが、操業状況等の影響とみられる変動や調査船調査データとの相違があり、解析方法の妥当性やデータの不確実性の考慮の必要性について指摘があった。参画機関からは、漁業者が減少し、漁獲努力量は減少し、利用しない漁場も多く、本データは全体の資源水準を反映しにくいものとなっており、資源水準が高いものの合理的に利用されないリスクの考慮と、適切な ABC 設定に向けた今後の検討の必要性について指摘があった。

これらに対し、担当者から、指摘のあった問題点については把握し、検討を進めており、本案は現状では妥当と判断される提案であることを説明し、今後の検討の必要性について加筆修正することとした。

以上